

今できることを大切に



菊地 貴子

化学物質評価研究機構東京事業所
[345-0043] 埼玉県北葛飾郡杉戸町下高野 1600
主管研究員, 博士 (工学).
専門は高分子材料分析, ISO/TC45/SC2 および
TC61/SC14 Expert.
<https://www.cerij.or.jp/>

毎号楽しく拝読しているこの企画にお声掛けいただき、大変光栄に思います。一方で、研究者としての華々しい経歴を歩んできたわけではありません。むしろ、振り返ると「成り行き」と「出会い」に導かれてきたように感じています。ここでは、これまでの仕事と生活を振り返りながら、私なりに感じていることを述べさせていただきます。

私はもともと研究者を目指していたわけではありません。進学先を選んだのも、高校時代に出会った教育実習の先輩の影響と、大学に「地球環境エネルギー講座」があったことがきっかけでした。講座での研究内容は想像していたものと異なり、転部も考えましたが、最終的にはその環境を受け入れ、「まずは自立すること」を目標に社会へ出ました。

就職先は材料分析を行う受託試験・研究機関です。お客様の困りごとや課題に対し、分析技術を用いて解決策を提供する仕事です。依頼者の話を聞き、課題を理解し、ともに解決策を考える過程に面白さを感じ、仕事中心の生活になっていきました。

そのような中、海外家具メーカーの日本進出にかかわる業務に携わり、スウェーデン本社で議論する機会をいただきました。複数の候補の中から当機構が選ばれ、現地へ招かれた経験は印象に残っています。当初は分析手法や結果の正確さといった技術面の説明を重視していましたが、現地で求められていたのは、試験の背景や考え方、さらにその結果が製品やビジネスにどのように結びつくのかという視点でした。自分の中では当然と考えていた前提も、必ずしも相手と共有されているわけではないことに気づき、国が異なれば仕事に対する考え方や常識も異なるのだと実感しました。また、自分では些細だと思っていた技術についても、相手にとっては重要であることがあり、「仕事の価値は自分ではなく相手が決める」ということを意識するようになりました。

その後、縁あって社会人博士課程に進学する機会をいただきました。現場で感じた課題に向き合う研究でしたが、当時まとめた高分子材料の添加剤と変色にかかわる論文は、発表から年月が経った現在でも読んでいただく機会があります。研究は発表で終わるものではなく、必要としてくださる方に届き、活用されて初

めて価値をもつのだと感じています。

一方で、現在ほどワークライフバランスという言葉が一般的ではなかった時代、仕事を優先しすぎた結果、自分自身を後回しにしてしまった時期もありました。当時の私は、自信のなさから何か問題が起きると「自分の努力が足りないのではないか」「自分が悪いのではないかと」考え、限界を超えてしまったように思います。その経験をきっかけに、心理学やコミュニケーションに関して学び、産業カウンセラーの資格も取得し、自分自身との向き合い方を見直しました。異なる分野の方々との出会いから新たな知識を得るとともに、自分の立場を俯瞰的に捉えるようになり、視野が広がったことは大きな転機でした。物事には必ず多面性があり、一面だけでなく複数の視点から捉えることの大切さを学びました。また、「人を変えることはできないが、自分は変わることができる」という考えにも出会いました。それまでの私は、自分の感じ方すら否定することがありましたが、自分の感情を認め、自分が何を大切にしたいかを見つめ直すことで、結果的に人間関係や仕事への向き合い方も次第に楽になりました。

振り返ると、私のこれまでは明確な目標をもって一直線に歩んできたわけではありません。その時々で目の前の課題に向き合い、人とかかわりの中で歩んできました。多くの方々との出会いと温かい支えのおかげで、今の私があります。その結果、気づけば、今では、国際標準化活動や国の研究プロジェクトへの参画など、自分では想像していなかった経験をさせていただいています。

好きなことが見つかっている人は、その道をぜひ追究してください。一方で、もし今、目標が見えていなくても、焦る必要はないと思います。目の前の仕事や出会いに誠実に向き合えば、道は後から形になってくると思います。そして同時に、自分自身の声にも耳を傾けてください。その両方があってこそ、長く続けられる仕事になるのだと思っています。私自身もまだその途上にありますが、これからも目の前の課題や出会いを大切にしながら歩んでいきたいと思っています。

皆さんの一人ひとりの歩みが、それぞれの形で実を結ぶことを願っています。皆さんの歩みを応援しています。